

FLORA KANAGAWA

Sep. 20. 2018 No.85

神奈川県植物誌調査会ニュース第 85 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846
e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp



図 1. オオコガネタヌキマメ *Crotalaria spectabilis* Roth (川崎市麻生区黒川 2002.9.18 内野秀重撮影).

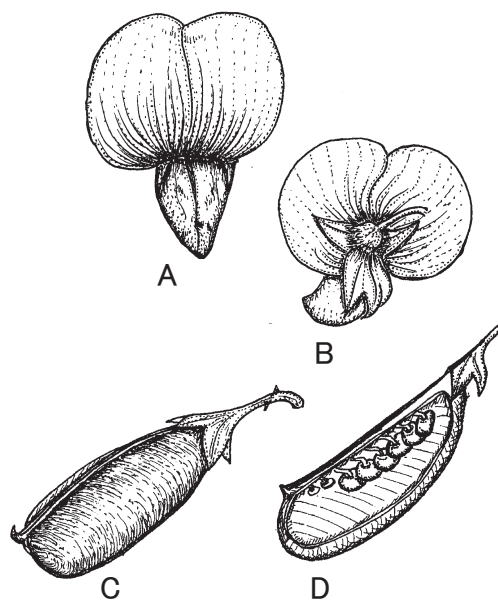


図 2. オオコガネタヌキマメ *Crotalaria spectabilis* Roth A: 蝶形花 (正面), B: 蝶形花 (背面), C: 萼と小苞の付いた豆果, D: 生長課程の豆果の断面 (図: 白拍子定雄).

川崎市麻生区黒川で採集されていた *Crotalaria spectabilis* Roth

(内野秀重)

2002年9月18日、川崎市麻生区黒川の草地にて見慣れない黄色の花を咲かせたマメ科植物を採集した。図鑑を手当たり次第あたってみると、『琉球の植物』(初島・中島, 1979)や『沖縄植物野外活用図鑑第3巻』(池原, 1979)などに掲載されているコガネタヌキマメ *Crotalaria assamica* Benth.らしいことがわかった。この植物は、当時、国内で緑肥作物として栽培される機会が増え、九州南部～琉球、南西諸島を中心に逸出・帰化する事例が知られていたことから、川崎市でも同様に逸出していたものと考えられた。ところが、インターネットで *C. assamica* の図版や解説にあたってみ

ると、前出の文献のコガネタヌキマメ (=私が黒川で見た植物) の写真とは花色、苞の大きさや葉の形状等が異なっていた。しかも、この属には熱帯を中心に近似種が多数あり(湯浅・前川, 1987; Wagner, W. L., D. R. Herbst & S.H.Sohmer., 1990; 竹松・一前, 1993; 中国科学院中国植物志編集委員会, 1998 ほか), 混乱があると推測された。そこで、これらの緑肥植物についてさらに調べてみたところ、日本国内でセンチュウ駆除目的で商品化されているタヌキマメ属植物には *C. juncea* L. (コヤシタヌキマメ, サンヘンブ) と *C. spectabilis* Roth の2種があり、このうち、後者 *C. spectabilis* が、黒川で採集した植物とまったく同一であることを突き止めた。前出の文献でコガネタヌキマメと和名の付いていた *C. assamica* は、少なくとも当

時、緑肥作物として用いられてはいなかったのである。この時点で、*C. spectabilis* が *C. assamica* と誤認され、コガネタヌキマメの名を与えられてしまったことは大方予想がついたのだが、問題はこれで終わりではなかった。コガネタヌキマメという和名は、1910年、台湾の植物を研究した川上瀧彌が *C. retusa* L. にすでに用いていたのである（川上, 1910）。疑問が深まる中、国内での外国産タヌキマメ属植物の実態を確認するため、2003年6月26日に国立科学博物館の標本を調査したところ、黒川産と同じと判断される *C. spectabilis* の標本が4点存在したが、全て国外産で和名は付けられていなかった。一方、上述した川上瀧彌の台湾の植物調査に関連したものと考えられる、コガネタヌキマメと和名の付いた *C. retusa* の標本を1点確認することができたが（台湾南投 1914.11.6 伊藤武夫 TNS47794）、他の和名の書かれていない外国産 *C. retusa* 標本と比べると、*C. assamica* との区別が難しい断片的な標本であった。

ますます混迷する状況を打開すべく、2003～2004年、最初に *C. assamica* にコガネタヌキマメの和名を付けられたと推測される鹿児島大学名誉教授の初島住彦先生に数回に渡り、当時の状況や経緯をお伺いした。その結果、*C. retusa* にコガネタヌキマメの和名がすでに付いていることを知らずに、琉球に帰化していた *C. spectabilis* を *C. assamica* と同定し、コガネタヌキマメと和名を提唱してしまったこと、一時、*C. assamica* にアッサムタヌキマメの和名を使用していたことがあること（初島, 1986）、*C. assamica* や *C. spectabilis*、*C. retusa* などが非常に混同されやすい植物であることから再度精査し、『琉球植物目録 増補改訂』（初島, 1994）では *C. spectabilis* に対し、中国植物志の解説（中国科学院中国植物志編集委員会, 1998）を引用して和名をムラサキタヌキマメとしたが、日本に入っている *C. spectabilis* は花色がまったく紫色にならないので、オオコガネタヌキマメに和名を変えた方がよいことなど、当時の経緯や初島先生のご検討の経過がお考えが理解できた。しかし、残念なことに、その後、初島先生はご逝去され、日本に帰化または逸出しているタヌキマメ属植物の混乱を解決する方策を見つけれられないまま、年月が過ぎてしまった。しかし、現在でも、「インターネットサイト植物図鑑『三河の植物』（<http://mikawanoyasou.org/data/kurotararia.htm>）を除き、国内の帰化植物を対象とした図鑑類のほとんどが、コガネタヌキマメに *C. assamica* の学名をあて、図版だけが *C. spectabilis* となっている

残念な状況が今も続いており、以上3種の和名を改めて整理することを提案したい。

まず、*C. spectabilis* であるが、琉球で命名された *C. assamica* の実態が *C. spectabilis* であったこと等を考慮すると、本種にこそコガネタヌキマメの名を与えることが望ましいとも思われた。しかし、それはさらなる混乱を招く可能性があり、*C. spectabilis* には新しい和名を用意の方が適切である。これについては、初島先生も私信の中で同意されており、新和名としてオオコガネタヌキマメが良いのではと述べられていた。大形で鮮烈な黄色の花をつけるこの植物は、英名でも派手で見栄えのするクロタラリア *showy crotalaria* と命名されており、そのイメージに合致した初島先生ご提案のオオコガネタヌキマメを、*C. spectabilis* にあてることとしたい。次に、*C. retusa* は、上述したとおり、1910年にコガネタヌキマメの和名が付与されており、これを改めて尊重して用いたい。そして、混乱の出発点となった *C. spectabilis* と混同されてきた *C. assamica* であるが、『北琉球の植物』（初島, 1991）に一時的に使われていたアッサムタヌキマメの和名を用いるのが適切と考える。上記3種に加え、緑肥作物として流通し、すでにコヤシタヌキマメと和名の付いている *C. juncea* を含めた、形態のよく似た4種のタヌキマメ属植物の検索表を作成し、相違点を示した。苞のほか、萼と苞のほぼ中間の花柄上に小苞片を持つものがあり、混同しないように注意したい。これらの4種のうち、*C. retusa* は現在まで、日本国内への帰化や一次帰化などの報告はないようである。なお、神奈川県内では、2002年における川崎市黒川でのオオコガネタヌキマメの発見以降、三浦市などでも標本が採られているが、いずれも散発的、一時的な帰化にとどまり、定着している様子はないようである。

引用文献

- 竹松哲夫・一前宣正, 1993. 世界の雑草 II - 離弁花類一. pp.268-269. 全国農村教育協会, 東京.
- 川上瀧彌, 1910. 台湾の植物. p.26. 台湾総督府民政部殖産局, 台北.
- 初島住彦・中島邦雄, 1979. 琉球の植物. p.226. 講談社, 東京.
- 多和田真淳・池原直樹, 1979. 沖縄植物野外活用図鑑 第3巻. pp.55-59. 新星図書出版, 那覇.
- 初島住彦, 1986. 改訂鹿児島県植物目録. p.85. 鹿児島植物同好会, 鹿児島.
- 湯浅浩史・前川文夫, 1987. マメ科資源植物便覧. pp.138-145. 財団法人日本科学協会, 東京.

中国科学院中国植物志編集委員会, 1998. 中国植物志 第42卷第2分冊 . pp. 341-379. 中国科学院, 北京.
 初島住彦, 1991. 北琉球の植物 p.103. 朝日印刷書籍出版, 東京.

初島住彦・天野鉄夫, 1994. 増補改訂琉球植物目録. pp.84-86. 沖縄生物学会, 那覇.
 Wagner, W.L., D.R. Herbst & S.H.Sohmer.1990. Manual of the flowering plants of Hawaii. 656-663.

類似の4種のタヌキマメ属植 (*C. spectabilis*, *C. assamica*, *C. retusa*, *C. juncea*) の検索表

- A. 茎は無毛かほとんど無毛, やや稜がある. 葉は倒卵形~倒披針形. 萼は無毛, 苞は卵状3角形で7~10mm..... *C. spectabilis* オオコガネタヌキマメ
- A. 茎は短軟毛におおわれる. 葉は長楕円形から倒披針形. 萼は圧着した軟毛が生える. 苞は線形~披針形で1~4mm
 - B. 茎に稜はない. 葉は倒披針形から長楕円形, 先端は鈍頭から鋭頭. 花卉に紫色の条線が入ることが多い. 豆果は無毛..... *C. assamica* アッサムタヌキマメ
 - B. 茎に稜がある.
 - C. 葉は倒披針形, 円頭から鈍頭でしばしば凹端. 花卉は紅紫色を帯びることがある. 豆果は無毛.....*C. retusa* コガネタヌキマメ
 - C. 葉は線状長楕円形~長楕円形, 先端は鋭頭から鈍頭. 花卉に赤色条線は入らない. 豆果は軟毛に被われる.....*C. juncea* コヤシタヌキマメ (サンヘンブ)

2018 年度総会の報告

(事務局)

2018年7月15日(日), 生命の星・地球博物館
 で役員会・総会が開催されました.

●各ブロックの活動報告

ここでは紙数の関係で割愛させていただきました.

●2017年度 運営体制 (次号へ)

目次

内野秀重：川崎市麻生区黒川で採集されていた <i>Crotalaria spectabilis</i> Roth.....	1011
事務局：2018 年度総会の報告.....	1013
事務局：『神奈川県植物誌 2018』について.....	1014
事務局：会費納入のお願い.....	1014

※『神奈川県植物誌 2018』は 1,000 部を印刷し、300 部を会員無料配布、500 部を県内外博物館・図書館等への配布、200 部を予約販売とする予算を示したが、総会では、寄贈数、予約数の状況により、印刷部数を増やすことが承認された。

●議題・報告

○DB 維持費の運用について

版下作成用 PC・ソフトウェアの整備
『神奈川県植物誌 2018』の刊行業務

○『神奈川県植物誌 2018』に印刷・発行について (総会時の提案、了承事項は次号へ)

→『神奈川県植物誌 2018』の印刷、発行、会員への配布、販売などの最新の情報は、次の記事をご覧ください。

○植物誌刊行後の展示について

○レッドデータ生物調査への協力について

○調査会会員の当面の活動について

標本データベースの正規化

1～2 年後のチェックリストの公開

『神奈川県植物誌 2018』について (事務局)

●印刷・発行の現状

総会では、10 月発行の予定をお伝えしましたが、入稿時期が遅れ、現在 10 月初旬に入稿し、校正作業等を経て、12 月の発行を予定しております。度重なる変更、申し訳ありません。また、総会時には、頒布価格 1 冊 15,000 円を見込んでいましたが、その後、印刷業者との交渉により 1 冊 10,000 円(送料・消費税込み)での頒布が可能となりました。なお、寄贈希望数、予約購入希望者数が多かったことから、1,400 部を印刷することとしました。

●会員への冊子体の配布、販売

調査会会員の皆様には、冊子体 1 冊を配布し、執筆者の方には、加えてもう 1 冊をお送りします。さらに必要な方は、神奈川県植物誌調査会の WEB ページの予約販売ページ (<http://flora-kanagawa2.sakura.ne.jp/information.html>) によりお申し込みください。1 冊 10,000 円(送料・消費税込み)となります。この価格は実費でもあり、会

員価格は設定されておりませんので、お許しく下さい。なお、『神奈川県植物誌 2018』の PDF 版は、会の WEB ページで無料で公開します。

会費納入のお願い

(事務局)

本号送付の封筒に会費の納入状況を表示させていただきました。2018 年度分までの会費が未納の方は、会費納入をお願いします。振替口座などは下記に記しました。会費の納入には、郵便局備え付けの振替用紙をご利用ください。会費納入状況に疑問のある方は、田中までお尋ね下さい。

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000 円